

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270800370		
法人名	有限会社 やまさき		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	〒859-4501 長崎県松浦市志佐町浦免206番地		
自己評価作成日	平成27年12月13日	評価結果市町村受理日	平成28年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4270800370-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成28年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋でバリアフリーにしており、手すりを多く設置して安全面に配慮している。提携医療機関との医療体制や協力医療機関(内科・歯科)からの医師の往診を実施することで入居者の健康管理に努めている。
スプリンクラーや自動体外式除細動器AED等の設備面の充実と共に、随時研修・勉強会を受講する事で、職員の資質向上に努めている。
近隣の中学校・高校の課外活動の受け入れ及び指導に協力させて頂いている。
様々なボランティア団体に慰問して頂き、入居者の方々に出来るだけ楽しい入居生活を送って頂けるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、国道から少し入った場所に位置しており、ホームの名前どおりポカポカと太陽の光がふりそそぐのどかな環境にあります。ホームの中はどこか懐かしさを感じる雰囲気があり、自宅に帰ったような安心感と心地よさを感じられます。玄関を入ってすぐの場所にはとても日当たりの良いテラスルームがあり、両ユニットの利用者は朝食後ここに集まり談笑するのが日課となっています。また、庭にはガーデンテーブルとイスが配されており、外気が気持ち良い季節になるとお茶やお菓子を準備し、屋外でのティータイムを楽しまれています。
ホームでの暮らしは、利用者一人ひとりの個性を尊重した自由な生活を基本として考えられており、利用者はその日の気分により好きな場所で好きなように過ごされています。代表者・管理者はじめ職員は明るく気さくで、利用者には家族のように寄り添いながら共に笑いあい、ホームでの共同生活が楽しいと感じて頂けるようなサービスの提供に努められています。
それぞれの利用者の持つ能力を活かして、出来る範囲での役割を持って頂くよう支援されており、ホームの理念の一つである「一人一人が主役で、必要とされていることを感じる場所」という文言の具現化を目指されていることがうかがえます。

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所開設時に、運営者と職員が共同で理念を作成した事で、その理念が日々のケアの実践へ反映しやすく、全員が統一した方針のもとにケアを実施している。	理念はホーム内に掲示されており、職員は理念を念頭においてサービスを提供されています。グループホームが地域密着型サービスへ移行した時に地域との交流についての理念も加えられており、新入職員への周知にも努められています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学校、高校の課外実習その他のボランティア等を積極的に受け入れる様努めている。近隣の方から季節の野菜の差し入れがある	地域に根ざしたホームを目指されており、散歩時の交流や職業体験の受け入れなどにも積極的に取り組まれています。パン屋さんへの出張販売の依頼などを含め、なるべく近所の商店などを利用するように心掛けられており、地域とのつながりを大切にされていることがうかがえます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方に対する理解や支援の方法について入居者の御家族及び関係者への働きがは行っているが、その他の地域の方に対してまでは至っていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に会議を開催し、ホームからの状況報告や、今後の方針について意見交換を行っている。その中で、外部委員からの提案、意見よりサービスの向上につながった面もある。	当該会議には家族代表や行政担当者の他に、第三者委員などが出席され、多様な意見を聴く機会に繋がっています。会議に出席されない家族にも内容を知って頂けるように議事録の閲覧が促されています。		
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議における行政の代表の委員や、生活保護受給者の担当職員とは常に情報交換を行っており又住宅介護支援事業者連絡協議会への職員の参加により、ホームの運営等に関し、アドバイスを頂いている。	行政の様々な部署と連携しながらホーム運営が行われています。各担当者とのコミュニケーションも良好で良い関係が築かれています。軽微なことから困難事例の相談まで、何かあれば直ぐに相談できる関係が構築されています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、日中常に施錠を行わずに開放しており、入居者が庭や洗濯物干し場等へ自由に行き来出来る様配慮している。	利用者の行動を抑制しないように心がけてサービスが提供されています。日中は玄関から庭などに自由に入入りでき、職員による見守りが行なわれています。万が一のことを考えて、事前に駐在所や自治会にも見守りの協力を依頼されています。	現在、身体拘束防止に関する研修は新入職員が入った時にのみ開催されている状況です。身体拘束は人権に関わる重要項目ですので、定期的に研修に取り組まれることを期待します。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員はスタッフ会議や日々の業務を通して、お互いのケアや接遇を確認し合い、必要があれば改善に努めている。又、入居者の心身の状態把握に努め、その意見には、素直に耳を傾けるよう配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設以来今日に至るまで活用の場面はないが、契約時や入居後の中で必要であれば関係者に対し、提案できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事前にホームの概要やケアの方針について充分説明を行い、又入居後の変更事項等については書面と面談による理解、納得を図る様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に目安箱を設置するとともに、面会の機会を利用し、意見、希望、苦情等をくみ上げることが出来るよう声かけを行っている。又、運営推進会議の中で、家族会の代表者の方から委員として意見等を拝聴している。	家族や利用者から出された意見や要望などは貴重なものとして受け止め、申し送りノートにて共有するよう努められています。実際にAED(自動体外式除細動器)の設置など、家族の意見による実現した事例なども聴かれます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議をその機会として、それぞれの立場からの意見をくみ上げる場としている。又、必要があれば、代表者及び管理者との個別面談も実施している。	毎月のスタッフ会議では色々な意見が出ています。会議以外でも物品購入やシフトの相談などが随時行われるなど、風通しの良い組織が形成されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も管理者や職員と共に、業務に従事している事で、直接個々の勤務状況が把握でき、その要望もホームの改善に反映しやすくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の研修を積極的に奨励しており、必要があれば、面談やアドバイスをを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市の居宅介護支援事業者連絡協議会に加入し、職員が勉強会や、その他の事業所との交流に参加し意見交換等を行うことで、サービスの質の向上が出来るよう努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や契約時の面談において、ホームの概要等について、充分説明を行う共に本人からの要望、不安等を拝聴把握し、支援に反映する様努めている。又、希望があれば入居体験及び行事への参加も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や契約時において、御家族の要望、不安等を拝聴、把握すると共に、ホームの概要や入居中の支援及び、手続き等についても十分に説明を行う様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談において、本人及び御家族の要望を伺うと共に、ホームが提供できる支援を説明し必要があれば、他の事業者及び医療機関を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の下ごしらえ、食後の下膳や食器拭き、洗濯物干し、衣類たたみ手伝って頂いてる又、職員の見守りの下、他の入居者のお世話をして頂いてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の行事等への御家族の参加を依頼すると共に、日々の暮らしの中で入居者本人にとって職員よりも御家族の力を必要とする場合においては、面会、外出等の協力をお願いし共に支えて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族だけではなく、入居者の顔なじみの知人や友人の方々の面会をお願いすると共に地域の行事(お祭り文化祭)への参加を積極的に行っている。	ホームを訪れる面会者を温かい対応で迎えられ、次の来訪に繋がるよう努められています。地域のお祭りやイベントには、利用者の馴染みの人が来られるため積極的に参加し、古くからの友人や懐かしい知人との再会を喜んで頂けるよう支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握する事で、職員が過剰に関わる事なく本人の素直な感情判断で互いに支え合う事が出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等にて一時退居された方でも、本人、御家族の要望があれば再入居に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃より入居者との関わりの中で、本人の希望、意向の把握を行い、その実現に努めている。又、職員側からも様々な提案を行う事で、豊かな入居生活を送って頂けるよう配慮している。	ホームでは利用者のやりたい事が尊重されています。利用者が他者に遠慮しているような場面が見受けられた時には、職員が上手く声掛けを行いながら調整し、意向に沿った生活ができるよう支援されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族に対する入居前の面談やそれまで利用されていた関係機関との情報交換に努め、入居生活の援助に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の記録や職員間の情報交換及び介護計画の活用により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の担当職員が本人や御家族の意向を下に介護計画を立案、スタッフ会議やミニカンファレンスにおいて、他の職員とも協議の上作成している。	ケアプランの更新は、基本3ヵ月毎に行われています。更新にあたっては、モニタリングを行いアセスメントを一から取り直した上でサービス担当者会議を開かれています。会議では日常の気付きについても話し合い、ケアプランの作成に活かされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護計画に沿って日々の様子や援助及びその結果について、個別記録に記載しその他の情報については、口頭での情報交換や申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に応じ、買い物支援を行ったり、定期的な床屋、パン屋の来所を依頼している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、周辺の中学校、高校の依頼に応じ生徒の課外活動の場を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大半の方が、同一のかかりつけ医の為、定期的に訪問診療を受けており、状態に応じ随時外来受診している。又、御家族が通院の付き添いを率先してやって下さりお願いしている。	以前からのかかりつけ医を継続受診することも可能とされています。また、ホームの提携医療機関による内科の往診や急変時の対応など、協力体制も整えられています。受診結果などについては、申し送りノートにより職員間で情報が共有されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム在職の看護師が常に日々の入居者の状態把握を行い、随時他の職員との情報交換や指導に努めている。又、協力医療機関との医療連携体制による週1回の看護師の問診も含め、入居者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	定期的な訪問診療や外来受診に職員が同行し、かかりつけ医や他の病院職員との情報交換を行っており入院時も本人及び御家族の意向を尊重した上で密接に協議を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関との医療連携体制の中で、重度化終末期対応指針を作成し、契約時、本人や御家族に看取りの支援体制について説明を行い同意を得ている。	終末期ケアを行う方針はあるものの、今までに看取りに至った実績はないとのことです。契約時に説明を行い、利用者の状況が変化した時にも終末期の意向を確認しながら、利用者の思いや家族の気持ちを尊重したケアの提供を心掛けられています。	終末期や終末期ケアについての研修や勉強会を継続的に行い、家族や職員のメンタル的なケアを含めて実践に備えられることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日々の業務において看護師が急変時の対応について指導を行うと共に、職員個人としても普通救命講習を受講し、入居者の急変時備えている。又、年2回防火訓練を実施しており事故発生等に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回、消防署や民間のアドバイザーの指導の下、消防訓練を行うと共に、近隣の住民の方々への協力依頼を行っている。	夜間を想定した避難訓練にも取り組まれ、消防署からのアドバイスをもとに話し合いも行われています。また、自然災害や原子力災害についての避難計画書を市に提出するなどの取り組みも行われています。災害時の食料品や備品などの備蓄も整えられています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な親しみのある言葉かけを行っているが、常に、相手の反応に注意を払い、人格の尊重に配慮する様努めている。	利用者がくつろげるように方言を交えながら話されてはいるものの、慣れあいになり過ぎないように心掛けられています。職員には、利用者との適度な距離感を崩さないようにして、敬意を持って接するように指導が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でできるだけ本人が自らの意志で自己決定できるような機械をつくり、指示的な言葉がけは必要最低限に留めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中で、食事や入浴等に関する大まかな決まりはあるが、その他の行動については個々の入居者の判断に委ね、希望があれば可能な限り配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、職員が買い物支援を行うと共に御家族とも相談の上、服装等の準備を依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時や年1度嗜好調査を行い嫌いなメニューがある時は代替の品を提供している。食事は毎食、入居者と職員が同じテーブルを囲み家庭的な雰囲気に努めている。	利用者に好まれる和食を中心とした家庭的な料理が提供されています。正月にはおとそと雑煮、冬には鍋を囲むなど、季節に合わせた献立を提供するよう努められています。利用者と職員が同じものを一緒に食べながら、楽しい時間を過ごされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューでは、個々の好み摂取能力に応じ、代替の献立や、お粥、キザミ食等の調理方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。又、定期的に歯科往診を依頼しており、入居者の摂取能力の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎のトイレ誘導を行うと共に、その方に応じた誘導方法を行っている。又、尿意、便意の表出が困難な方に対しても、トイレでの排泄を試み自然排泄を促す様努めている。	排泄チェックシートを用いて、利用者のタイミングに合わせたトイレへの誘導が行なわれています。要介護度が高い人でもトイレで排泄できるよう職員による支援が行なわれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限りトイレでの排泄を働きかけると共に、水分や食物繊維の充足等の食事面の配慮も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回ではあるが、2ユニットで週4回お風呂を沸かし、できるだけ個々の希望に沿えるよう配慮している。又、皮膚の疾患への処置や清潔保持が必要な方に対しては、前記以外の場合でもシャワー浴や足浴で対応している。	入浴の時間帯や回数は定められていますが、できる限り希望に応じる姿勢を持たれています。拒否がある利用者にも気持ちよく入浴して頂けるよう誘導の声かけについても工夫されています。季節に応じて柚子湯なども楽しまれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の居室には冷暖房機器が設置しており、快適な環境で睡眠できるよう配慮している。又、夜間眠りが浅い方に対しては、職員がお茶を準備したり、話し相手を努める事で不安を取り除く様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関からの薬に関する指示や説明書について、常に理解、把握に努め日々の入居者の状態を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前農業をされていた入居者に庭の菜園へのアドバイスを頂いてる。又、個々の入居者それぞれに可能な範囲で、洗濯物干しや衣類たたみ、食事の後片付け等に参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の入居者の希望に応じ、買い物支援を定期的に行うと共に、入居者や御家族、地域の方々からの情報を下に地元の催し物等への参加を積極的に行う様努めている。	なるべく戸外に出かけられるよう散歩や買い物などを支援されています。お祭りに出掛けた際には、屋台で各自好きなものを食べる機会を設けるなど利用者の楽しみも大事にされています。個別の外出についても希望に応じるよう努められています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と共に買い物に出かけたり、職員が買い物代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所内の電話を利用して頂いたり、手紙の投函を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天窓により自然光を取り入れており、玄関や畳の間、応接室には一年中生花が飾られている。又、廊下の壁には行事の写真や入居者、職員の作品が掲示されていて季節感を醸しだしている。	利用者が集うテラスルームには、季節に応じた飾りつけが行われています。リビングには、ステッパーなどの健康器具もいくつか置かれており、利用者が自由に使用できるようにされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラス、応接室より静かに景色を眺められたり、マッサージチェアや畳の間に寝転んでくつろがれている様子がみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が自宅等で使い慣れた家具や寝具がいない方は搬入して頂き、入居後もそのまま使用して頂いている。	居室には、仏壇や愛用品などが持ち込まれ、利用者にとって居心地の良い空間に設えられています。居室は全て洋室ですが、畳マットなどを敷いて和室風に利用することも可能です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には段差はなく、手すりを多く設置することで、一人でも各場所への移動が容易にできるよう配慮している。又、トイレ・浴室・洗面所の入り口には表札を付け、居室が分からない入居者の居室の入り口には、目印となる飾りを付けている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で目標の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所開設時に、運営者と職員が共同で理念を作成した事で、その理念が日々のケアの実践へ反映しやすく、全員が統一した方針のもとにケアを実施している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学校、高校の課外実習その他のボランティア等を積極的に受け入れる様努めている。近隣の方から季節の野菜の差し入れがある		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方に対する理解や支援の方法について入居者の御家族及び関係者への働きがは行っているが、その他の地域の方に対してまでは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に会議を開催し、ホームからの状況報告や、今後の方針について意見交換を行っている。その中で、外部委員からの提案、意見よりサービスの向上につながった面もある。		
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議における行政の代表の委員や、生活保護受給者の担当職員とは常に情報交換を行っており又居宅介護支援事業者連絡協議会への職員の参加により、ホームの運営等に関し、アドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、日中常に施錠を行わずに開放しており、入居者が庭や洗濯物干し場等へ自由に行き来出来る様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員はスタッフ会議や日々の業務を通して、お互いのケアや接遇を確認し合い、必要があれば改善に努めている。又、入居者の心身の状態把握に努め、その意見には、素直に耳を傾けるよう配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設以来今日に至るまで活用の場面はないが、契約時や入居後の中で必要であれば関係者に対し、提案できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事前にホームの概要やケアの方針について充分説明を行い、又入居後の変更事項等については書面と面談による理解、納得を図る様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に目安箱を設置するとともに、面会の機会を利用し、意見、希望、苦情等をくみ上げることが出来るよう声かけを行っている。又、運営推進会議の中で、家族会の代表者の方から委員として意見等を拝聴している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議をその機会として、それぞれの立場からの意見をくみ上げる場としている。又、必要があれば、代表者及び管理者との個別面談も実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も管理者や職員と共に、業務に従事している事で、直接個々の勤務状況が把握でき、その要望もホームの改善に反映しやすくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の研修を積極的に奨励しており、必要があれば、面談やアドバイスをを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市の居宅介護支援事業者連絡協議会に加入し、職員が勉強会や、その他の事業所との交流に参加し意見交換等を行うことで、サービスの質の向上が出来るよう努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や契約時の面談において、ホームの概要等について、充分説明を行う共に本人からの要望、不安等を拝聴把握し、支援に反映する様努めている。又、希望があれば入居体験及び行事への参加も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や契約時において、御家族の要望、不安等を拝聴、把握すると共に、ホームの概要や入居中の支援及び、手続き等についても充分に説明を行う様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談において、本人及び御家族の要望を伺うと共に、ホームが提供できる支援を説明し必要があれば、他の事業者及び医療機関を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の下ごしらえ、食後の下膳や食器拭き、洗濯物干し、衣類たたみ手伝って頂いてる又、職員の見守りの下、他の入居者のお世話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の行事等への御家族の参加を依頼すると共に、日々の暮らしの中で入居者本人にとって職員よりも御家族の力を必要とする場合においては、面会、外出等の協力をお願いし共に支えて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族だけではなく、入居者の顔なじみの知人や友人の方々の面会をお願いすると共に地域の行事(お祭り文化祭)への参加を積極的に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握する事で、職員が過剰に関わる事なく本人の素直な感情判断でお互いに支え合う事が出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等にて一時退居された方でも、本人、御家族の要望があれば再入居にに応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃より入居者との関わりの中で、本人の希望、意向の把握を行い、その実現に努めている。又、職員側からも様々な提案を行う事で、豊かな入居生活を送って頂けるよう配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族に対する入居前の面談やそれまで利用されていた関係機関との情報交換に努め、入居生活の援助に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の記録や職員間の情報交換及び介護計画の活用により、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の担当職員が本人や御家族の意向を下に介護計画を立案、スタッフ会議やミニカンファレンスにおいて、他の職員とも協議の上作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護計画に沿って日々の様子や援助及びその結果について、個別記録に記載しその他の情報については、口頭での情報交換や申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望に応じ、買い物支援を行ったり、定期的な床屋、パン屋の来所を依頼している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、周辺の中学校、高校の依頼に応じ生徒の課外活動の場を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大半の方が、同一のかかりつけ医の為、定期的に訪問診療を受けており、状態に応じ随時外来受診している。又、御家族が通院の付き添いを率先してやって下さりお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム在職の看護師が常に日々の入居者の状態把握を行い、随時他の職員との情報交換や指導に努めている。又、協力医療機関との医療連携体制による週1回の看護師の問診も含め、入居者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	定期的な訪問診療や外来受診に職員が同行し、かかりつけ医や他の病院職員との情報交換を行っており入院時も本人及び御家族の意向を尊重した上で密接に協議を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関との医療連携体制の中で、重度化終末期対応指針を作成し、契約時、本人や御家族に看取りの支援体制について説明を行い同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日々の業務において看護師が急変時の対応について指導を行うと共に、職員個人としても普通救命講習を受講し、入居者の急変時備えている。又、年2回防火訓練を実施しており事故発生等に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回、消防署や民間のアドバイザーの指導の下、消防訓練を行うと共に、近隣の住民の方々への協力依頼を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な親しみのある言葉がけを行っているが、常に、相手の反応に注意を払い、人格の尊重に配慮する様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でできるだけ本人が自らの意志で自己決定できるような機械をつくり、指示的な言葉がけは必要最低限に留めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中で、食事や入浴等に関する大まかな決まりはあるが、その他の行動については個々の入居者の判断に委ね、希望があれば可能な限り配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、職員が買い物支援を行うと共に御家族とも相談の上、服装等の準備を依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時や年1度嗜好調査を行い嫌いなメニューがある時は代替の品を提供している。食事は毎食、入居者と職員が同じテーブルを囲み家庭的な雰囲気に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューでは、個々の好み摂取能力に応じ、代替の献立や、お粥、キザミ食等の調理方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。又、定期的に歯科往診を依頼しており、入居者の摂取能力の維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎のトイレ誘導を行うと共に、その方に応じた誘導方法を行っている。又、尿意、便意の表出が困難な方に対しても、トイレでの排泄を試み自然排泄を促す様努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限りトイレでの排泄を働きかけると共に、水分や食物繊維の充足等の食事面の配慮も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回ではあるが、2ユニットで週4回お風呂を沸かし、できるだけ個々の希望に沿えるよう配慮している。又、皮膚の疾患への処置や清潔保持が必要な方に対しては、前記以外の場合でもシャワー浴や足浴で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の居室には冷暖房機器が設置しており、快適な環境で睡眠できるよう配慮している。又、夜間眠りが浅い方に対しては、職員がお茶を準備したり、話し相手を努める事で不安を取り除く様になっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関からの薬に関する指示や説明書について、常に理解、把握に努め日々の入居者の状態を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前農業をされていた入居者に庭の菜園へのアドバイスを頂いてる。又、個々の入居者それぞれに可能な範囲で、洗濯物干しや衣類たたみ、食事の後片付け等に参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の入居者の希望に応じ、買い物支援を定期的に行うと共に、入居者や御家族、地域の方々からの情報を下に地元の催し物等への参加を積極的に行う様努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と共に買い物に出かけたり、職員が買い物代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所内の電話を利用して頂いたり、手紙の投函を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天窓により自然光を取り入れており、玄関や畳の間、応接室には一年中生花が飾られている。又、廊下の壁には行事の写真や入居者、職員の作品が掲示されていて季節感を醸しだしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラス、応接室より静かに景色を眺められたり、マッサージチェアや畳の間に寝転んでくつろがれている様子がみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が自宅等で使い慣れた家具や寝具がよい方は搬入して頂き、入居後もそのまま使用して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には段差はなく、手すりを多く設置することで、一人でも各場所への移動が容易にできるよう配慮している。又、トイレ・浴室・洗面所の入り口には表札を付け、居室が分からない入居者の居室の入り口には、目印となる飾りを付けている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			